

クラス番号	701	担当教員名	吉井 清子
テーマ	病い体験から学ぶ		
著書・論文 研究課題等	「中年期既婚女性における就労・社会参加・家庭内役割の精神健康への影響と家族要因の調整効果」(『日本福祉大学社会福祉論集』2004)、「企業のダウンサイジングがサバイバー(解雇を免れた従業員)の健康に与える影響に関する研究の動向」(『日本福祉大学社会福祉論集』2006)、「地域在住高齢者の社会関係の特徴とその後2年間の要介護状態発生とその関連性」(『公衆衛生雑誌』2005)他		

ゼミナール概要

キーワード：

目的、内容、方法等：

人は病気を患うことで、大きな影響を受けることがあります。一生あるいは長期間その病気と共に生きていかなければならない場合、特にその影響は大きいでしょう。それは外部からわかりやすくなる場合もありますし、わかりづらい些細なこと(しかし本人にとってはとても重要)の場合もあるでしょう。それまで出来ていたことができなくなったり、人生の目標をあきらめなければならなかったりすることもあるでしょう。人生に絶望する人もいるでしょうが、病い体験を通じて新たに前向きな人生を歩み出す人もいるかもしれません。社会や医療・福祉に対して憤りや不満を感じることもあるでしょう。

この専門演習では、病気や障害をもつ人の声に耳を傾けることで、それぞれの人の人生に対して病気や障害がもたらした影響や意味や軌跡を理解していきたいと思えます。病い体験を理解するための方法は、色々考えられます。病いの体験に関する文献を読むことで、どのようなことを大切にして体験を理解することが必要か学ぶことができます。患者会や家族会での当事者同士の語りを聴くこともできるでしょう。病気や障害が社会の中でどのように扱われて来たのかなど、歴史的に理解することも重要かもしれません。

授業計画：

3年生前期は、各ゼミ生の問題意識を出し合いながら、病い体験についての理解を深めていきます。場合によっては、視野や問題意識を広げるために何らかの共通テキストを使うかもしれません。

3年生後期は、前期からの課題を引き続き深めながら、専門演習論文のテーマを絞るなど準備を始めます。

4年生は、専門演習論文の進行状況を発表し合ったりお互いにアドバイスをするなどを繰り返しながら内容を深め、個人研究またはグループ研究を完成させます。

その他ゼミコンや交流企画等も無理のない範囲で計画し盛り込んでいきます。

担当教員からのメッセージ

基本的には自由度の高いゼミになると思えます。特に将来の進路も問いません。雑談も交えつつ、基本的なことから専門的なことまで色々と話しができるゼミにしたいと思っています。